

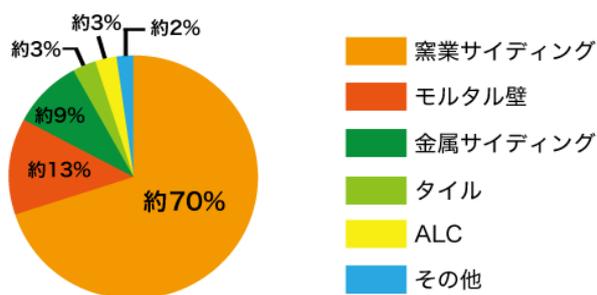
『たすけ』の気まぐれコラム（第十一回）

こんにちは『たすけ』です。今回は外壁リフォームのお話です。

外壁リフォームと言えば塗装が最もポピュラーで、10年前後で1度塗り替えが必要なことからリフォームというよりはメンテナンスという意味合いの方が強い感じになっています。

とはいうものの、1回当りの費用は100万単位で、建てかえ前に最低でも1～2回、一般的には3回程度の塗り替えが必要となり、ランニングコストとしては多額の出費となっている事実があります。

一方、壁材の新設にはサイディングの張替えと上貼りの2種類があり、既存壁を壊さない上貼りの方が費用面で有利になります。ただし、窯業系サイディングは重量がある為、上貼りには向かず張替え用と認識した方が良いでしょう。



リフォーム産業新聞社調べ

いずれも一長一短がありますが、塗装・外装材新設とも高くなっても長期メンテナンス不要の物を選択したほうがベストです。（工事のたびに足場設置という無駄な経費が毎回かかる為）

主たる外装サイディングには窯業系と金属系の2つがあって、それぞれ特徴があります。

窯業系は、凹凸が付けやすくデザイン的に高級感をかもし易いメリットがありますが、重くて上貼りに向かない上、打撃に脆く角欠けが生じることや、施工後も物がぶつかるクラック（ひび割れ）の可能性があり、寒冷地だと雨水が浸入し凍ることで破裂する（凍害と言います）危険性があります。

金属系は凍害の心配がなく、軽いため上貼りにも向きますが、固いものがぶつかる凹んだり、キズがつくと、その部分から錆びたり腐食したりする場合があります。

その他にモルタルやタイル・ALCなどがありますが、いずれもリフォームには不向きです。

意外と知られていない材質として『樹脂サイディング』があります。日本では北海道以外では知る人ぞ知る商材ですが、北米では半世紀前から使用されている最もポピュラーな商材です。

錆・腐食の心配がなく、ひび割れの恐れもほとんどないことに加え、水洗いできれいになり、メンテナンスも楽です。

軽いため上貼りしても構造躯体への影響が少ないイイ事尽くめの商材です。

日本で普及していないのは、商流に建材店や工務店が絡み、新規商材を否定するため、末端の認知度が低いためです。

施主目線で長期的コストを考えれば、比類の無い商材なので、リフォーム時には是非ご検討下さい。

参考：塩ビ工業・環境協会（樹脂サイディングのQ&A）

http://www.vec.gr.jp/kenzai/siding_asset/q&a.html

次回は「夏を快的に過ごす」についてのお話です。お楽しみに。

